

臨床研修カリキュラム

養成コース [消化器外科]

全体目標: 外科診療の基本を身につけ、主な消化器疾患について検査・手術を含めて幅広く学び、消化器外科領域の基本的な診療ができる。

個別目標:

	3か月未満	3か月以上(再ローテーションを含む) 左記に加えて下記の事項ができる
1	医療面接、全身(特に胸腹部)の身体診察ができる	
2	適切な診療録の記載ができる	
3	血液検査、動脈血液ガス分析検査に関し、①適応の判断 ②手技の実施 ③結果の解釈 ができる。	
4	胸腔穿刺、腹腔穿刺を上級医の指導の下で実施できる。	上級医の指導(軽度の介助)の下、指導医のもと穿刺部位の選定から穿刺までを実施できる。
5	腹部X線の系統的な読影ができ、異常陰影を指摘し、解釈を述べることができる	
6	腹部CTの系統的な読影ができ、異常陰影を指摘し、解釈を述べることができる	
7	上部・下部消化管内視鏡検査の適応および実施方法、合併症を述べることができる	上部消化管内視鏡検査を上級医の指導の下で、検査の一部を実施できる。
8	腹部超音波検査の適応および実施方法、合併症を述べることができる	腹部超音波検査を上級医の指導の下で、実施できる。
9	胃癌、大腸癌、胆嚢炎などに関し、ガイドラインに沿った診断および治療方法の立案ができる	
10	消化器癌に関して、診断し治療方針の立案ができる	
11	消化器癌の病期および治療適応に関して判断できる	
12	消化器癌の定型手術について理解し、手順を述べることができる	
13	化学療法を、効果や副作用などを理解しプロトコールに従って実施できる	抗がん剤の有害事象への初期対応ができる
14	緩和ケアに関して理解し、基本的な症状コントロールが実施できる	
15	患者の尊厳に配慮し、死亡確認および遺族への対応が行える	
16	上級医・指導医の指導監督のもとで病状説明ができる	
17	清潔・不潔の概念を理解し、手術に助手として参加できる。	縫合・結紮を術野で行うことができる。

18	消化器の良性疾患の定型手術について理解し、手順を述べることができる	複雑でない単径ヘルニア根治術、虫垂切除術を指導医の指導の下、術者として実施できる。
19	急性腹症について、適切な問診、診察、検査を行い、結果を解釈し、治療方針を立案できる。	上記の検査結果、診断、治療方針について、上級医の指導の下、患者に説明できる。

方略:

病棟で5-10人程度の患者を受け持ち、上級医・指導医の指導のもと受け持ち医として主体的に診療する。

- ・教授回診…週1回(水または木)。受け持ち患者に関してプレゼンテーションを行う。また、術後患者に関しては経過を詳細にプレゼンテーションする。
- ・内視鏡検査…週1回(火)。検査の準備を行い、一部検査を実施する。
- ・腹部超音波検査…週1回(金)。検査の準備を行い、一部検査を実施する。
- ・合同カンファレンス…週1回(水)。消化器外科、消化器内科、放射線診断部、放射線腫瘍部、病理部による合同カンファレンスに参加し、受け持ち患者のプレゼンテーションを行う。
- ・抄読会…週1回(金)。ローテーション中に最低1回発表する。
- ・その他、地方会や研究会に積極的に参加する。

評価:

- ・EPOC II による評価を行う
- ・修了時に評価表(研修医の経験内容等に関する自己評価および呼吸器内科の指導体制等に関する評価を記載)を提出。評価表は消化器外科のスタッフ・シニア以上のレジデント、全てが共有する。
- ・ローテーション中に養成コース長による面接評価を行う(適宜)。